



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

国立二小だより

令和2年(2020年)11月27日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

学校を創る子供たち

校長 小林 理人

秋空の下、体育委員会の呼びかけで実現したミニ運動会が開催されました。創立70周年の節目となる運動会は、子供たちの思いが詰まった手作りの運動会でした。校庭には子供たちの歓声が広がり笑顔が溢れました。雨天の延期等もあり、ご迷惑をおかけしましたが、ご参観いただいた皆様に感謝いたします。

子供たちは、これまで様々な取組や学習を通して培った主体性や創造性、行動力等の学校を創る力を思う存分に発揮し、自分たちの思いや願いを実現させました。

学校を創る力

今年は創立70周年の節目となる運動会です。創立以来、欠かすことなく行われてきた運動会の伝統を繋いだのは体育委員会や6年生を中心とした子供たちでした。

今週の月曜日に行われた開会式を前に、体育委員会の委員長と赤白の応援団長に校長室に来てもらい、開会式でみんなに伝えたいことについてそれぞれの考えを聞きました。

「開会式では、小学校生活の締めくくりとしてどうしても運動会をやりたいかったという自分の思いと、コロナ禍でもみんなに運動会を楽しんでほしいという気持ちを伝えたい。」(体育委員会委員長)

「笑顔と勝負で勝とう。」「相手に勝つという気持ちが持てるようにエールを送りたい。」(団長)

その表情や言葉の内容から、自分たちが企画した運動会をよりよいものにしようという強い気持ちが伝わってきました。そして、1年生から二小で育ち、多くの先輩たちの姿に憧れ、目標とすることで育まれた学校を創る力の成長を感じました。

学校を創るリーダーの思い

本校には、「二小魂」の文字が染め抜かれた大漁旗があります。当時の教職員と6年生が二小の伝統である「二松ソーラン」に込めた思い(二小魂)を伝えるものとして作成しました。そして、この大漁旗を運動会で演じる「二松ソーラン」の中で掲げ、6年生としての思いを見ている人たちに伝えていきます。また、この「二小魂」を4つの漢字を組み合わせせた四字熟語として表すことも二小の恒例になっています。

先日、開校記念集会で披露する「二松ソーラン」のリーダーを務める子供たちから、今年の四字熟語の報告がありました。各クラスで自分たちの思いを表す漢字を一文字決めて、その漢字を12人のリーダーが組み合わせて四字熟語にまとめたそうです。

そして、今年の四字熟語は「希叶輝心」(きときしん)です。

「自分たちの願いを叶えよう」「みんなの夢が叶いますように」「心を輝かせよう」といった思いが込められています。この言葉から、学校を創るリーダーとして「コロナ禍の1年を悔いなく過ごし、自分たちのやるべきことを、心を輝かせながら頑張っていこう」という強い意欲を感じました。



12月1日(火)は、創立70周年をみんなで祝う開校記念集会を計画しています。都内感染者数の増加が気になりますが、これまで同様の感染予防対策を講じて計画通り実施する予定です。

集会では「二小の明日に種をまこうプロジェクト」として5年生を中心に子供たちの力で創り上げた「パブリカ」をみんなで踊ります。そして、二小で育んだ学校を創る力の集大成として、6年生が「二松ソーラン」を披露します。

二小伝統の「二松ソーラン」に込められた「希叶輝心」の思いをみんなで受け止め、その思いをバネにして未来に向けての第一歩を力強く踏み出します。

開校記念集会で、PTAの担当の方から創立70周年の記念品である「現在の校舎のジオラマ」を披露していただきます。新しい校舎になることから、子供たちに二小の良さや伝統を未来に繋ぐ資料として作製していただきました。披露後は中央玄関に展示をさせていただきます。ご来校の際にはご覧ください。